



蓮如上人ものがたり

蓮如上人は生涯、貧困苦難のなかでお過ごしになられました。

幼少のときから、衣食住とともに極貧のなが  
ですごし、勉学も月影をたよりとし雪の窓に  
寄つてなされたと申します。

一紙半錢紙ぎれにいたるまで「如来様から賜つたものよ」と押しのぞきお念佛申されました。

また、上人のおしえのもう一つの柱、「信心くすことのできない女性の業苦を共にするなからご本願を仰いだときのこころであつたのはずです。

蓮如さまは、女の業苦を共にしながらご本願をいただいたかたです。

うみの母親は幼い蓮如に念佛再興のねがいを託して行方しれずとなつていきました。その身分が祖母の召し使いであつたゆえであります。

三十歳ちかくで結婚なきつた妻でありましたが、産んだ子供も手元では育てられず、また共々世の荒波を流浪したり、何人かの子供



「だだだだだだ



春の訪れとともに真紅の花弁を開かせたアマリリスが、春の二ヶ月を力いっぱい燃えとおして、終に昨日最後の花を落としました。「花の終焉」です。

春のいのち

いたしきあす  
ごちそうさまと  
ほとけの子

蓮如さまは家庭の内にも外にも、そういうおんなのひとたちと共に苦しみ嘆き、そしてともに弥陀にひしとすがり、たすけたまえとのんだでした。

いまに残る『ご文章』などの一言ひとつは、いはばその時代のなまなましい罪業苦難のなかからでた全身全靈身をしほるようなどばと聞かせていただくのです。

をなくしたり、自らも倒れて行く。そんな妻を五人まで失い。

しかしそれはただ蓮如の妻たちばかりではありませんでした。

鎌倉から室町にかけて、男たちは上下をいわす戦い競い殺し合う時代でありました。そのなかで女だれもが女の業苦に泣いて暮さねばならなかつたのです。

いまに残る『じ文章』などの一言ひとことでは、いはばその時代のなまなましい罪業苦難のなかからでた全身全靈身をしぶるような」とばと聞かせていただくのです。

願う簡単なことばと、いろいろな美しい花の刺繡をして、世界の国々のこともたちへプレゼントしてあげる国際ボランティアのお仕事です。

それともう一つ、この病のお陰でおみのりに出会ったということだと彼女はいっていました。

彼女は出会うたび静にそのように申していました。

「人の、いのちをうけるは難中の難。  
かならずやがて死ななければならぬも  
のが  
しかし、今、生きているということは  
なんと尊いことか」

「花の命はみじかくて  
春の日を、一日一日、精一杯に輝いて咲いたアマリリスは、夏を待たずに散ってしまつたが、あの真紅の花のあざやかさは、いまもわたしのこころに焼きついであります。  
わがともの、癌末期の姿は、彼女の残した法句經のことばとともに、わたしの今日のいのちをゆきぶりつづけております。

「人の、命をうけるのは難中の難  
かならずやがて死ななければならぬも  
のが  
しかし、いま生きているということは、  
なんと尊いことか」

一日	平田專福寺永代経
二日	平田專福寺永代経
三日	森戸義則氏宅法事
四日	半海氏宅法事・宮嶋一男氏宅法事
五日	本山参拝
六日	松本源明氏宅法座
七日	日高ことぶき園花祭り講話
八日	出石組組会（正福寺）
九日	玉日会定例法座
十日	出石組『連研』（十期8・9回）
十一日	十六夜会定例法座
十二日	赤穂南組連研〇B会講話
十三日	宗祖降誕会（じゅうたんえ）
十四日	出石社福介護を考える会講話
二六日	金久志津子氏宅法事
みのりを聞く会定例法座	



都見諸仙淨土因  
國土人天之善惡

1

國土一人天下之善惡  
法藏菩薩さまは、私たちを救うために、まず、  
お師匠さまである世自在王如来さまに次のことを  
ひたすらお願いなさいました。 「あまたい  
なさるほとけさまたち、その諸仏がたが、こん  
な人をこのように救つてやりたいという願いと  
努力によって、それそれにお淨土をおつくりで  
あります。

ほとけさまたちのどのようなねがいとおはた  
らきから、どのようなお淨土があるのかを、ど  
うぞすべて私に見せてください。 そしてまた  
、その国々のすばらしさと欠点、その淨土にす  
くわれている人々のすばらしさと欠陥、それら  
すべてをわたしは知り尽くしたうえで、あらた  
めてわたし独自の（極悪深重の凡夫をこそ最上  
の淨土に救おうといふ）願行に励みたいと思  
います。 どうぞお師匠さま、わたしの切なる願  
いをお聞きとどけてください。」

この大慈悲の（あなたをすててはおけぬという）おこころから法感菩薩のご苦労はじまるのです。

## 五月のこよみ

新一年生

入学おめでとう  
湯口恵さん(榎見)  
横山智宏くん(榎見)  
坂本このみさん(坪口)  
亀井満理奈さん(出石)  
浜兼任井奈央さん(栗尾)  
石田結さん(八鹿)  
宮嶋裕人くん(小谷)  
初田信寿くん(唐川)



乳飲み子の時に脳膜炎を患って、それで少しばかり知恵遅れがありました。入学のときにはどんなにハラハラしたことか。

あのころは『特別学級』にいれてもらつて、先生にも大変なお世話になりましたが、親である私もほんにハラハラしづくめで、手もかかりました。

じつは五年生の秋、学芸会があつて、三島先生が『三島学級』に「金の鶏」という劇をやらせたのです。

何ヵ月も前から、学校ではもちろんですが、家でも私と二人で、この劇にとりくみました。必死でした。恥をかかないように、人様から笑われないようにと。

おかげで劇は大成功。大拍手でした。一緒に習った親がびっくりするぐらいな出来でした。

あとでその子たちの母親同士ではなしたことですが、

「晴れの舞台みてたとき、こどもの仕草にあわせて思わず手を動かしてたネ。」  
「わが子の台詞にあわせて口うごいちゃつてたネ」って。  
そしてまた「先生のお蔭かしらないけど、あれだけのことがやれるわが子を、親として本当に誇りに思えたわ」

ます。まげかけたあさ  
かただいじにつけられました  
さんきなよいせ  
よつたなり

その娘は、中学高校と進んで看護婦になつて結婚。今は堂々たる四児の母親です。

顧問	勝林寺仏事務員
会長	龜井孝(敬称略)
副会長	大石正和
会計	中島武志
事務局	平野稔
法輪会理事	永井孝一郎
会員	古田芳美
副会長	斎藤千秋
副会長	宮嶋千秋
副会長	村田三喜男
副会長	横山弘三
副会長	坂本克美

## 幼いうちに育てよう

兵庫教区門徒推進員連絡協議会

蓮如さまは、なにごとにつけてもほとけさまからのいただきものとして頭をさげられ、すべてのものにいのちをみつめて大切になさいました。そのお気持ちが蓮如さまの生活の基本であり、念佛者としての生きかたにもなっていたのです。

もし、いま、この時代に蓮如さまがここをお歩きになつたら…と思うことがよくあります。蓮如様は石に腰をかけ、死んでしまった小川をながめ、そこに生きることのできなくなつた小さな生きもののたちのいのちをみつめ、きっと涙されるにちがいないと思うのです。

人はあがりあがりでおちばをしらぬなり。ただつしみで不斷にそらおそろしきことと、事ごとにかけてここをもつべきのよし仰せられ候う。

『ご一代記聞書一七〇条』

つしみを忘れ、もつたいないを忘れた私たちは、いま、本当に立ち止まり、考えなければなりません。

お念佛をよろこび、お念佛が生活のすべてとなるいきかた、それが、蓮如さまの涙におこたえすることになるのではないでしょうか。

(一口法語より)

## 蓮如さまの歴史

立正佼成会

中川真昭

ある日のことです。

だいぶお年をめされた蓮如さまは、山科本願寺の廊下をお一人で歩いていらっしゃいました。

すると、廊下のすみの方に、小さな紙きれがおちていたのです。蓮如さまは、足をとめらざるになつた蓮如さまは、足をとめられ、それをひろいあげ、両の手でおしいただかれておっしゃいました。

「ああ、もつたないことを。ほとけさまからのいただきものをそまつにして、あいすまぬことでございました!」

## 山門・鐘楼工事はほぼ完了



山門は、今までのものより道路からやや高く基礎工事(コンクリート打ち)が仕上がりました。ただ工事進捗上やむをえず取り壊された参道は手づかずのまま。

鐘楼は従来のものより一段高く幅も若干広くとつて御影石の土台部分が立派に石組み完了致しました。工事費は第二回分、建前時に支払いの予定です。